

《研究ノート》

大学初年次教育における情報リテラシー教育の検討

——情報モラル教育のあり方を中心に——

緒賀正浩 桑原和也 貞清裕介 榎本立雄

■ アブストラクト

本研究ノートは、筆者達が継続して調査を行っている初年次教育における情報リテラシー教育のあり方についてのものである。今回の調査からは、著作権関連の講義内容の充実が求められること、及び、SNSを含むネットトラブルでは、アカウント乗っ取りや炎上対策に関する講義内容の充実が求められることを示唆した。

■ キーワード

情報リテラシー・情報モラル・初年次教育

■ Key Word

information literacy・information ethics・First Year Experiences

はじめに

本研究ノートは、拙稿「大学初年次教育における情報リテラシー教育の実際—質問紙調査から見た結果と課題—」にて2018(平成30)年度の質問紙調査を報告したものに引き続き、2019年(平成31/令和元)度にて継続して調査した結果を報告するものである。

大学の初年次教育における情報リテラシー教育に関する研究は年々蓄積している。2019年度に発表された初年次教育における情報リテラシー教育の質問紙調査による研究としては、松山恵美子・石野邦仁の研究¹⁾や井田志乃の研究²⁾、皆川武の研究³⁾があげられる。松山・石野の研究は、情報端末の使用状況やパソコンに関する内容、高等学校までの情報教育の履修状況などを調査している。井田の研究は情報端末の使用状況やSNS(social networking service、以下SNSとする)利用時のプライバシーの意識調査などを行っている。皆川の研究は、パソコンの操作に関する調査研究を行い、前年度との調査研究の比較検討を行っている。これらの研究蓄積の一端に、本研究ノートも位置付けることが出来るだろう。

1. 2019 年度の調査概要

本質問紙調査は2019(令和元)年7月22日から25日、本大学で初年次必修講義として開講されている「情報の活用と倫理」⁴⁾の最終の授業時に任意回答の形で実施された。調査対象の学生は本大学の1年生2,019人であり有効回答者数は1,312人であった(回答率65%)⁵⁾。質問紙の内容は、昨年度実施した調査の26項目⁶⁾に新たに9項目を加えて、35項目となっている。ただし、今回の調査は、倫理審査手続きのミスにより調査時期が講義終了時になった。従って、Microsoft office ソフトの習熟に関する調査については条件の調整が困難であるから、本研究ノートの検討対象から外している。

2. 2019 年度の調査結果と前年 (2018 年) 度結果との比較

(1) 情報機器活用能力について

まず、情報機器の活用状況については、前年度との比較結果も合わせて、以下の表1の通りである。

表1 情報機器活用能力についての状況(基本操作)

*複数回答の割合は回答者数(2019年度 n=1312、2018年度 n=1802)より算出

質問内容	回答項目	2018年(4月)		2019年(7月)	
		回答数	割合	回答数	割合
携帯端末を持っていますか? (複数回答)	① iPhone	1459	81.2%	1077	82.1%
	② スマートフォン (Android)	382	21.2%	276	21.0%
	③ スマートフォン (その他)	16	0.9%	12	0.9%
	④ iPad	191	10.6%	142	10.8%
	⑤ iPad 以外のタブレット端末	126	7.0%	80	6.1%
	⑥ ネットブック	16	0.9%	14	1.1%
	⑦ その他	15	0.8%	21	1.6%
	⑧ 持っていない	4	0.2%	1	0.1%
	未回答			0	0.0%
小中高校でこれまでにパソコンを使った 授業がありましたか?	① あった	1785	99.1%	1292	98.5%
	② なかった	17	0.9%	20	1.5%
	未回答			0	0.0%
あなたは日常生活でパソコンを使っていますか? (複数回答)	① 自分のデスクトップパソコンを使っている	170	9.4%	125	9.5%
	② 自分のノートパソコンを使っている	550	30.5%	653	49.8%
	③ 自分のタブレット (iPad 等) を使っている	191	10.6%	146	11.1%
	④ 親 (家族) のパソコンを使っている	706	39.2%	376	28.7%
	⑤ その他	28	1.6%	35	2.7%
	⑥ 使っていない	447	24.8%	210	16.0%
	未回答			0	0.0%
パソコン (タブレット) の使用頻度はどの 位ですか?	① 毎日	397	22.2%	388	29.6%
	② 2 ~ 3日に1回	330	18.4%	346	26.4%
	③ 1週間に1回	480	26.8%	380	29.0%
	④ 使わない	585	32.6%	198	15.1%
	未回答			0	0.0%

パソコン(タブレット)は何時から使い始めましたか?	①小学校入学よりも前	66	3.7%	52	4.0%
	②小学校から	784	43.5%	569	43.4%
	③中学校から	474	26.3%	306	23.3%
	④高校から	293	16.3%	184	14.0%
	⑤大学に入学してから	126	7.0%	173	13.2%
	⑥使ったことが無い	59	3.3%	28	2.1%
	未回答			0	0.0%
あなたは自作のパソコンを持っていますか?	①持っている	264	14.7%	289	22.0%
	②持っていない	1538	85.3%	1023	78.0%
	未回答			0	0.0%
パソコン(デスクトップPC、ノートPC)の操作は普段何で行っていますか?(複数回答)	①マウス	1230	68.3%	861	46.6%
	②キーボード	861	33.2%	812	44.0%
	③その他	87	9.9%	82	4.4%
	④パソコンは使っていない	270	15.0%	91	4.9%
	未回答			0	0.0%
パソコンでkey(ローマ字)入力ができますか?	①できる	1001	55.5%	881	67.1%
	②大体できる	599	33.2%	363	27.7%
	③あまりできない	178	9.9%	65	5.0%
	④全くできない	24	1.3%	3	0.2%
	未回答			0	0.0%
key 入力はタッチタイプができますか?(キーボードを見ずに入力できますか?)	①できる			138	10.5%
	②大体できる			292	22.3%
	③あまりできない			576	43.9%
	④全くできない			305	23.2%
	未回答			1	0.1%
電子メールを使いますか?	①パソコンと携帯電話の両方で使っている	422	23.4%	427	32.5%
	②パソコンのみで使っている	40	2.2%	51	3.9%
	③携帯電話(スマートフォン)のみで使っている	1188	65.9%	743	56.6%
	④使ったことがない	152	8.4%	90	6.9%
	未回答			1	0.1%

今年度より、新たにキーボード操作の習熟状況に関する調査も開始した。その結果、タッチタイプ(ブラインドタッチ)が「できる」と回答した学生は10.5%、「大体できる」との回答が22.3%に対して、「あまりできない」との回答が43.9%、「全くできない」との回答が23.2%であった。総じて、大半の学生はkey入力こそ出来るものの入力の速度はそれほど速くない事が窺える結果となった。

次に、前年度調査との比較であるが、今年度の調査時期が大学入学直後ではなくなったこともあって、日常生活で自分のノートパソコンを使用するとの回答が大幅に増加した。また、関連して、大学入学後にパソコンを使い始めたと回答した学生、及び、日常生活において「2～3日に1回」パソコンを使用すると回答した学生も増えている。さらに、電子メールも「パソコンと携帯電話の両方で使っている」と回答した学生が増えている。

(2) SNS の利用状況⁷⁾

次に、SNS の利用状況に関する調査結果は、前年度の比較も合わせて、次の表2の通りである。

表2 SNSの利用状況

*複数回答の割合は回答者数(2019年度 n=1312、2018年度 n=1802)より算出

質問内容	回答項目	2018年(4月)		2019年(7月)	
		回答数	割合	回答数	割合
自分のwebページ(ホームページ)を持っていますか?	① Web ページを持っている	57	3.2%	38	2.9%
	② Web ページを持っていない	1391	77.2%	1026	78.2%
	③ Web ページを知らない	354	19.6%	246	18.8%
	未回答			2	0.2%
自分のブログを持っていますか?	① ブログを持っている	71	3.9%	75	5.7%
	② ブログを持っていない	1583	87.8%	1095	83.5%
	③ ブログを知らない	148	8.2%	140	10.7%
	未回答			2	0.2%
SNSのアカウントで持っているものがあれば選んでください(複数回答)	① LINE	1754	97.3%	1252	95.4%
	② FaceBook	427	23.7%	305	23.2%
	③ Twitter	1498	83.1%	1072	81.7%
	④ Instagram	1084	60.2%	910	69.4%
	⑤ Tiktok			230	17.5%
	⑥ その他(mixi, mastodon など)	58	3.3%	120	9.1%
	⑦ 持っていない	30	1.7%	27	2.1%
	未回答			2	0.2%
普段、よく使っているSNSはどれですか?(複数回答)	① LINE	1698	94.2%	1193	90.9%
	② FaceBook	49	2.7%	27	2.1%
	③ Twitter	1252	69.5%	803	61.2%
	④ Instagram	866	48.1%	716	54.6%
	⑤ Tiktok			89	6.8%
	⑥ その他(mixi, mastodon など)	59	3.2%	36	2.7%
	⑦ 持っていない	30	1.7%	22	1.7%
	未回答			2	0.2%

今回の調査で新たな調査項目は設けていないが、SNSの興隆状況を踏まえて、今年度はアカウント調査にTiktokを加え、mixiやmastodonをその他に統合した。その結果、Tiktokのアカウントを保有していると回答した学生は17.5%おり、少なくない学生がTiktokアカウントを所持している状況が判明した。

なお、前年度の比較でもSNSアカウントの保有状況に大きな変化はみられない。ほとんどの学生は何らかのSNSアカウントを所持しており、また、使用頻度の高いSNSとしてLINE、Twitter、Instagramがその他のSNSを圧倒するという状況の変化は当面起きないと推測して差し支えないだろう。また、調査時期の違いによると思われる差も殆ど見られない。

(3) 情報検索及び情報収集能力

情報検索及び情報集能力についての調査は、前年度の比較も合わせて、以下の表3の通りである。

表3 情報検索及び情報収集能力

*複数回答の割合は回答者数(2019年度 n=1312)より算出

質問内容	回答項目	2018年(4月)		2019年(7月)	
		回答数	割合	回答数	割合
ヤフー、Googleなどのweb検索はどの位使いますか?	①頻繁に(1日に何回も)使う	1226	68.0%	911	69.4%
	②時々使う	494	27.4%	344	26.2%
	③あまり使わない	75	4.2%	52	4.0%
	④使ったことがない	7	0.4%	4	0.3%
	未回答			1	0.1%

URL という用語を知っていますか?	①意味も含めて知っている	725	40.2%	661	50.4%
	②名前は知っている	1022	56.7%	637	48.6%
	③知らない	55	3.1%	13	1.0%
	未回答			1	0.1%
web ブラウザ (Internet Explorer、Google chrome など) でどのくらいのことが出来ますか? 出来ることをすべて選択してください	①URL入力			872	66.5%
	②検索エンジンの高度な利用 (AND 検索、OR 検索など)			331	25.2%
	③ファイルのダウンロード			748	57.0%
	④ web ページの作成、修正			212	16.2%
	⑤どれもできない			166	12.7%
	未回答			1	0.1%
知的財産権という用語を知っていますか?	①意味も含めて知っている			435	33.1%
	②聞いたことはある			632	48.1%
	③知らない			242	18.4%
	未回答			3	0.2%
クリエイティブ・コモンズという用語を知っていますか?	①意味も含めて知っている			119	9.1%
	②聞いたことはある			442	33.7%
	③知らない			749	57.0%
	未回答			2	0.2%

今年度より、新たに web ブラウザで出来る内容の調査、及び、知的財産権、クリエイティブ・コモンズに関する調査を加えた⁸⁾。その結果、web ブラウザで出来る事として、過半数を超えているのが「URL 入力」66.5%、「ファイルのダウンロード」57.0%であった。一方で、調査項目の「どれもできない」と答えた学生も 12.7%いた。また、知的財産権という言葉を「意味も含めて知っている」と答えた学生は 33.1%、「聞いたことはある」と答えた学生は 48.1%であった。本調査時点では、講義において知的財産権を講義済みであることを踏まえた場合、この段階でも「知らない」と答えた学生が 18.4%いるという状況は、今後の講義改善の重要な材料となるであろう。加えて、著作権に関連する用語であるクリエイティブ・コモンズについては、「意味も含めて知っている」9.1%、「聞いたことはある」33.7%と、合わせても過半数に達していない状況も深刻に受け止める必要がある。

前年度との比較でみると、URL の「意味も含めて知っている」と答えている学生が増えているが、今回の調査は調査月が前年度と異なっている為、初年次教育の効果が現れているかどうかはわからない。

3. 本学における情報モラル教育のあり方について —自由記述の回答から考える—

SNS トラブルについての調査は、前年度の比較も合わせて、以下の表4の通りである。

表4 SNSトラブルについて

質問内容	回答項目	2018年(4月)		2019年(7月)	
		回答数	割合	回答数	割合
SNS でトラブルに遭遇したことがありますか?	①自身が巻き込まれたことがある	87	4.8%	70	5.3%
	②他のアカウントがトラブルを起こしている場面を見たことがある	484	26.9%	255	19.4%
	③遭遇したことはない	1231	68.3%	985	75.2%
上記の質問で、1か2を選択した方で、内容を具体的に書けるという方は下記にお願いします。自由記述					

まず、SNSでトラブルに「自身が巻き込まれたことがある」5.3%、「他のアカウントがトラブルを起こしている場面を見たことがある」19.5%と、約25%の学生がSNSでトラブルに遭遇、または、その場面を見たことと回答した。次に、上記の質問で「自身が巻き込まれたことがある」または、「他のアカウントがトラブルを起こしている場面を見たことがある」と回答した学生を対象に、任意で遭遇、目撃したトラブルを具体的に記述してもらった。その結果、計128件⁹⁾の記述が集まった。以下、自由記述に記載されたSNSトラブルの事例を纏める。

①アカウント等の乗っ取り38件

自由記述で最も多かったのは、SNSアカウントの乗っ取りであった。中には自身のアカウントが乗っ取られた上に悪評をばら撒かれたり、他者攻撃に利用されたという記述もあった。

②炎上24件

次に多かったのは、SNSにおける炎上であった。多くは炎上を目撃したというものであったが、若干名、自身が炎上した経験を持っているという記述もあった。

③喧嘩、粘着など20件

ネット上での言い争いやストーカー行為の記述も多かった。中には、ネット上でのストーキング被害から、実際のストーキング被害に拡大して被害を受けたとの記述もあった。

④不適切投稿18件

炎上与重なる面も多いが、不適切な投稿を記述した学生も多かった。中には、他人の画像や作品を自身の作品と偽って投稿しているのを目撃したという記述があった。

⑤金銭トラブル14件

ネット上での金銭トラブルを記述した回答も少なからずあった。お金を払ったのに商品が来ないというネット詐欺の被害にあったというものが大半であったが、中には商品を送ったのにお金が支払われなかったという形での被害もあった。このケースは、個人間での売買が容易になったネット社会においては、詐欺の被害形態も多様化している事を象徴するものであろう。

⑥なりすまし6件

数は多くないが、他人のなりすましの記述があった。中には、アンケートに回答した時点で、自身がなりすましの被害に遭って対応中と記述した学生もいた。

⑦いじめ6件

SNSでのいじめ行為の記述もあった。なお、この記述については、実際の人間関係のトラブルがネット上にも派生した事を窺わせるものが複数あった。

その他、実名などの晒し行為や有害アプリとの連携被害などの記述もあった。

以上の自由記述は、「SNSでトラブルに遭遇したことがありますか？」でSNSトラブルに「自身が巻き込まれたことがある」、あるいは「他のアカウントがトラブルを起こしている場面を見たことがある」と回答した中のさらに一部であり、自由記述の集計で集まった記述の傾向がそのまま全体の傾向として適用できるわけではない点に留保する必要がある。しかし、その留保を踏まえたとしても、大学初年次教育における情報モラル教育の中で、今後、アカウント乗っ取りや炎上、不適切投稿の予防や対策をより重視したカリキュラムを模索すべきであると言わざるを得ないだろう。また、ネット上だけではなく実生活上の被害も生じている点に着目すれば、ネット上での金銭トラブルやなりすまし、ネットストーカー問題などは、実被害を受けた場合の具体的な対応方法もシミュ

レーションやフローチャート化する等の形でカリキュラムに組み込むべきかもしれない。

おわりに

以上、本研究ノートでは、前年度との調査結果との比較を行いつつ、情報モラル教育のあり方を検討する事に重点を置いた若干の検討を行った。今年度から行われている「情報の活用と倫理」の講義では、情報モラル教育の充実が要請されている状況である。本研究ノートの結果はその要請に対して、著作権関連の講義内容の充実、SNSを中心としたネットトラブルに対する予防と具体的対応のさらなる充実が必要であることを示すことが出来たのではないと思われる。

なお、今回は検討できなかった Microsoft office ソフトの習熟に関する調査については、調査時期調整の上で、次年度以降も継続して調査する予定である。

なお、本研究ノートは榎本の監修の下、緒賀が主として執筆を担当し、桑原が図表作成、貞清が先行研究調査と全体構成を行った。また、本質問紙調査は本大学「情報の活用と倫理」担当教員の協力の下で実施された。

注

- 1) 松山恵美子、石野邦仁子「大学における情報教育と課題—さまざまな領域の基盤に繋げていく情報活用能力の育成—」『淑徳大学研究紀要（総合福祉学部・コミュニティ政策学部）』53巻、2019年。
- 2) 井田志乃「宮崎公立大学学生における情報リテラシーの現状と課題」『宮崎公立大学人文学部紀要』第26巻第1号、2019年。
- 3) 宮川武「大学入学時におけるパソコンの操作に関する調査—メディア系学科生を対象として—」『目白大学高等教育研究』第25号、2019年。
- 4) 2019(平成31/令和元)年度からカリキュラムの改編により、これまで初年次必修科目として開講されていた「情報リテラシー a」、「情報リテラシー b」は、前期の初年次必修科目として「情報の活用と倫理」に改編された。なお、初年次後期には、選択科目として「コンピュータ基礎演習」、「コンピュータ応用演習」が開講されることとなった。以下、必修科目である「情報の活用と倫理」と前年度までの必修科目であった「情報リテラシー a」、「情報リテラシー b」のシラバスを添付する。

「情報の活用と倫理(2019年度)」シラバス

情報の活用と倫理
1 ガイダンス、情報と倫理1(SNS 利用上の注意点)
2 情報と倫理2(インターネットの基礎と電子メールの使い方)
3 情報と倫理3(インターネットのトラブルと情報の信頼性)
4 情報と倫理4(情報の脅威と対策)
5 Word による文書作成の準備 (Word の基本機能)
6 Word による文書作成の基礎 (文書・文章の体裁)
7 Word による文書作成の応用 (表・画像・各種設定)
8 文書作成の振り返り
9 Excel による表計算の準備 (表の作成と簡単な数式)
10 Excel による表計算の基礎 (関数の利用と簡易データベース機能)
11 Excel による表計算の応用 (グラフの作成と印刷)
12 表計算の振り返り
13 PowerPoint によるプレゼンテーションの基礎 (効果的なスライドの作成と PowerPoint の基礎)
14 PowerPoint によるプレゼンテーションの応用 (表・図形・写真・動画等の挿入と発表の仕方)
15 全体の振り返り

「情報リテラシー a/ 情報リテラシー b(2018年度)」シラバス

情報リテラシー a		情報リテラシー b	
1	情報リテラシーの基本的な考え方と授業展開の説明	1	コンピュータの歴史とデジタル情報の基礎
2	大学における電子メールの利用方法とネチケットについて	2	表計算の基礎1(表計算の歴史とExcelの概要・基礎)
3	インターネットの歴史とネット犯罪について(情報倫理)	3	表計算の基礎2(データの扱い・データの編集・セル参照・数式の基礎)
4	インターネット社会のルールとマナーについて(情報倫理)	4	表計算の基礎3(計算の基本・簡単な関数・表示形式・シート・操作)
5	文書作成の基礎知識と表現力(ビジネス文書等)	5	表計算の基礎4(表の作成と体裁)
6	Wordによる文書作成1(文書作りの基本・段落)	6	表計算の基礎5(相対参照と絶対参照・グラフの作成・印刷)
7	Wordによる文書作成2(箇条書きと段落番号)	7	表計算の基礎の振り返り
8	Wordによる文書作成3(文字の位置を揃える・インデントとタブ)	8	表計算の応用1(いろいろな関数の利用)
9	Wordによる文書作成の振り返り	9	表計算の応用2(データベースの利用)
10	Wordによる文章表現力1(文章中の表作成)	10	表計算の応用3(表やグラフの印刷)
11	Wordによる文章表現力2(図形・ワードアート・クリップアートの挿入)	11	表計算の応用の振り返り
12	Wordによる文章表現力3(写真の挿入と印刷)	12	プレゼンテーションの基礎(スライド作成の基礎)
13	Wordによる文章表現力の振り返り	13	プレゼンテーションの応用1(表やグラフの挿入・図形や写真等のグラフィック処理)
14	Wordによる長文作成	14	プレゼンテーションの応用2(特殊効果の設定・印刷)
15	Word全体に対する振り返り	15	プレゼンテーションの振り返り

- 5) なお、講義スケジュールの関係でアンケートを実施できなかったクラスがある。そのクラス分の人数422人を除外した場合、回答率は約82%となる。
- 6) 調査の詳細は、拙稿「大学初年次教育における情報リテラシー教育の実際—質問紙調査から見た結果と課題—」『明星大学大学院教育学研究科年報』第4号、2019年、87-88頁を参照の事。
- 7) 昨年度の調査報告では「情報モラルに関わるSNSの利用状況及びSNSトラブル」であったが、本研究ノートでは情報モラルについて焦点化するため、SNSトラブルに関しては次節の「3、本学における情報モラル教育のあり方について-自由記述の回答から考える-」で詳細に扱うこととする。
- 8) この調査項目を新たに加えた要因として、大学生の著作権教育の重要性が先行研究に指摘されているからである。例えば、野田佳邦は著作権教育について、「著作権教育の目的の一つとして情報化社会への適応能力の育成が挙げられるところ、その目的を達成するためには、学習者に著作権に関する知識を定着させるのみならず、知識を活用した判断力を養う必要がある」(野田佳邦「短期大学生を対象とした著作権リテラシー教育の試み」『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』第55巻、2017年、1頁)としてその重要性を挙げている。ところが、野田によると、「大学等の高等教育機関においても、法学部や経済学部を対象とした知的財産法を扱うカリキュラムは一定程度整備されているものの、知的財産の実践的な知識を修得するための体系的なカリキュラムが確立されているとは言い難い」(野田、同上)とし、著作権教育の方法やカリキュラムが大学における情報リテラシー教育で確立できていない問題点を指摘している。加えて、本大学においても、今年度の「情報の活用と倫理」から著作権教育を取り込んだことも加味して、本研究ノートでは講義内で扱った著作権教育に関する項目として、知的財産権、クリエイティブ・コモンズについて、どの程度の理解が得られているかを調査する意図でこの設問を設置した。
- 9) なお、複数項目にわたって該当すると判断される記述がある為、合計は128件にならない。

参考文献

- 桑原和也、貞清裕介、緒賀正浩、榎本立雄「大学初年次教育における情報リテラシー教育の実際—質問紙調査から見た結果と課題—」『明星大学大学院教育学研究科年報』第4号、2019年、77-88頁
- 松山恵美子、石野邦仁子「大学における情報教育と課題—さまざまな領域の基盤に繋げていく情報活用能力の育成—」『淑徳大学研究紀要(総合福祉学部・コミュニティ政策学部)』53巻、2019年、21-34頁
- 井田志乃「宮崎公立大学学生における情報リテラシーの現状と課題」『宮崎公立大学人文学部紀要』第26巻第1号、2019年、1-16頁
- 宮川武「大学入学時におけるパソコンの操作に関する調査—メディア系学科生を対象として—」『目白大学高等教育研究』第25号、2019年、127-133頁
- 野田佳邦「短期大学生を対象とした著作権リテラシー教育の試み」『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』第55巻、2017年、1-10頁